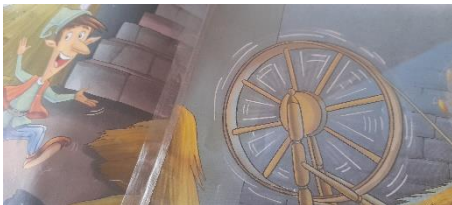


Your future is made by reading books 17号

2024年9月20日

新年度が始まりました。新しい学期のスタートですが、図書館には本が好きだったヨンの姿はありません。ヨンやこれまで見送った本好きの生徒のように、新たにまた本が好きで自習時間や休み時間に図書館を利用してくれる生徒が出てきて欲しいと新年度スタートに思うのです。しかし新年度に入ったものの依然として問題は残されたままです。教師増員により教員のイスが足りなく図書館のイスが持ち出され使用されている事。また園児クラスのベンチも足りなく図書館のベンチが持ち出され使用されている事、本来図書館で使われるはずのイスが無い、書架の棚に生徒が腰かけて壊れてしまった事。今に始まった問題ではなく、もう一年以上に渡り、すみやかに本来あるべきところに返すようにと言っているものの解決されずにいるのです。学校側の考えは「図書館で使用している生徒がいないからイスもベンチも（図書館外）で使う。」「棚を直す費用は無い。」です。常に図書館で生徒が使用していなくてもイスとベンチは図書館備品という事が考え方の違いなのか？文化の違いなのか？わかってはもらえないようです。そうしたなかで園児クラスを覗くと、利便性を重視して特注した黄色のベンチを机にして授業を受けている子どもたちを見て、ほぼ毎日のように「直ぐにでも返して。」と言っている私の言動が悪かなものを感じてしまうのです。しかし「図書館で使用している生徒がいないから使う。」は分からなくもないけれど、それは違う！と自問自答の繰り返しなのです。乱雑に扱われた冊子タイプをサージカルテープで補正しながら、この図書館備品があるべきところに無い事や、どうしたら本を大切に扱ってもらえるのだろうと考えました。考えても考えても答えは、イスとベンチは図書館にあるべきものになってしまうのです。書架の整理整頓をすると「あれ？あの参考書が無いな？」「辞典もない。」と気づくことが多々あり、それを校長に報告すると不思議と次のときに戻ってきます。寄贈スタンプは消され個人名がポーペンで書かれていたりすると、つまりはそういう事なんだなととてもとても悲しくなるのです。貧しさ故という事では決して片づけられない問題なのかもしれません。『Your future is made by reading books』図書館完成時に想いを込めて掲げた看板に記した言葉です。子どもの学び舎の一つである図書館だからこそ、環境を整備し維持していきたいと思うのです。



これまでセロファンテープで直していた冊子タイプの絵本をネットで調べて医療用サージカルテープを試してみることにしました。まだまだ寿命のきていない本は補正しています。

図書館建設サポーター

一般社団法人ギブアウェイ様

プロジェクトサポーター

フェリシモ基金事務局様

矢東タイヤ様

KAWASHO FOODS (GULF) FZE 様